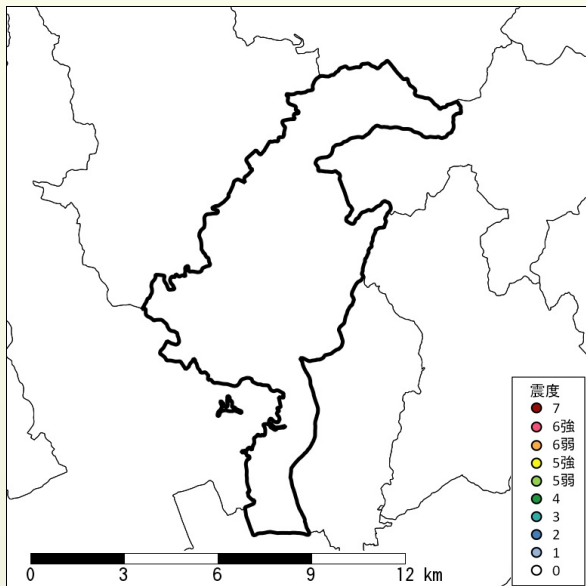


M 4.1, 震源地:石川県能登地方, 深さ約10km, 2023/03/29 03:48頃発生 (気象庁発表)

兵庫県川西市

震度の分布 最大観測震度3(*) 主要都市の推定震度 (都市の最大観測震度と人口を考慮して掲載)

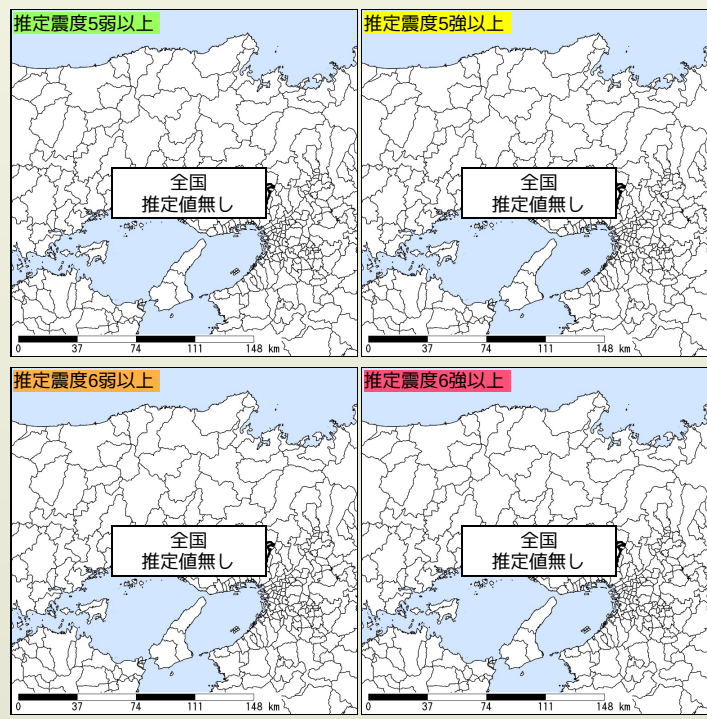


最大(*) 観測震度	推定震度頻度分布 1 2 3 4 5-5+6-6+ 7	市区町村名	全人口:夜間(人)	震央距離 (km)
-		兵庫県川西市	150,000	341
3		石川県珠洲市	16,000	7

最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。観測開始時刻9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成22年国勢調査、平成21年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度になるよう四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

解析開始時点(2023/03/29 03:58:32)で収集されている防災科研K-NET、KIK-net、気象庁、地方公共団体震度計の計測震度データを利用。(*)気象庁発表の情報と一致しない場合がある。一部正式な震度観測点ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。他の図表も同様。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



補間した250mメッシュの推定震度分布と、250mメッシュに細分化した平成22年国勢調査、平成21年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を重ね合わせ、各行政区の震度遭遇人口を推計した。

震度5弱以上の震度遭遇人口の推定値が無い場合、震度遭遇人口は表示されません。

震源域付近で起こった過去の主な被害地震

発生日	地震名	M	被害
1847	越後頸城郡	6.5	善光寺地震の被害と区別できないところが多い。漬家・大破ならびに死傷があった。地割れを生じ、泥を噴出し、田畑が埋没したところもあった。
1858	飛騨・越中・加賀・越前(飛越地震)	7.0 ~7.1	飛騨北部・越中で被害が大きく、飛騨で漬家319、死203。山崩れも多く、常願寺川の上流が堰止められ、後に決壊して流出および漬家1600余、溺死140の被害を出した。跡津川断層の運動(右横ずれ)によると考えられる。
1858	信濃北西部	5.7	大町郡で家・蔵が潰れ、山崩れがあった。この地震が引金で、2月26日の地震で堰止められたところが崩れたと考えられる。
1892	能登半島西岸	6.4	家屋・土蔵の破損があった。11日にも同程度の地震があり、羽咋郡で全壊2、死1。
1896	石川県北岸	5.7	蛸島村で土蔵倒壊2、家屋破壊15。禄剛崎燈台破壊。
1933	能登半島沖	6.0	石川県鹿島郡で死3、家屋倒壊2、破壊143、ほかの被害があった。富山県でも傷2。
1943	長野県北部	5.9	死1、住家全壊14、半壊66、非住家全壊20。その他、道路の亀裂などがあった。
2007	能登半島沖(能登半島地震)	6.9	海陸境界域の横ずれ成分を含む逆断層型地殻内地震。死1、傷356、住家全壊686、半壊1740(2009年1月現在)。最大震度6強(石川県3市町)、珠洲と金沢で0.2mの津波。
2014	長野県北部	6.7	逆断層型地殻内地震(深さ5km)。糸魚川-静岡構造線断層帯の北部部分で発生したと考えられる。住家全壊77、半壊137(2015年1月5日現在)。最大震度6弱(長野県長野市・小谷村・小川村)。

出典: 国立天文台編「理科年表 平成29年」、丸善出版(2016)、一部表現を割愛

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2020年版地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布 再現期間50000年相当の計測震度分布

